2022年（令和4年）
第26号
（3月1日）

平安だより

HEIAN letter

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

今月のことば　～福田に種をまく-布施③～　伏見支部　岩崎りえ

会長先生は先月号に引き続き、「布施」の功徳についてお説き下さいました。

思いやりや、慈しみの心を実生活の中で生かすことにより、心が喜びでいっぱいになり、安らかな気持ちが得られるという、この事が「布施」の功徳に他なりませんと教えて頂きました。
そこで法施によって得られた功徳をお伝えしたいと思います。
「目が悪くて読めないから」と託された佼成誌を３年位前からご近所のMさんに差し上げています。彼女はとても素直な方で押し頂いてご本を受け取り「こういうご本は心が潤って栄養になるから」とすごく喜んで訪れるたびに開祖さまを称え、毎月心待ちにして下さっていました。“素晴らしいお師匠さんですね”と教えを実行したいと、通学する子供たちを見守り、声かけをされているそうです。

ある日、仲良しの二人組がどうやらケンカしたらしく、ふてくされた様子で別々に帰って来ました。彼女は二人を呼び止め、庭の椿の葉をとって、一人は泣いている子の顔を、もう一人の子にはアッカンベエをした顔を描いて渡したところ、お互いに絵を見せ合って大笑いして帰って行ったとの話を聞き、瞬時に子供たちの心を転換させる方便力の巧みさと鮮やかな行動に目を見張りました。

またある日は道路工事の方に氷を差し入れて喜んでもらったり、ご主人と不仲な奥さんと一緒に料理しながら愚痴をこぼしあいましょうねと関わったり。
パートのかたわら、胃ろうのご主人を看病しているお友達に「少しの時間でも、ここで心と身体を休めていくと良いよ」と自宅に招き入れ、お父さんの様子を見て食欲がない息子さんのために手料理を持たせたり、と私は彼女のお話を聞くのが楽しみで伺うのですが、人が喜んで下さるのが何よりうれしいと仰るその人を法悦の人というのでしょう。

近頃では「人生心がけ」や「脚下照顧」などを読んで頂いてますが、必ず３度は読み返し大切なところは忘れないよう、ノートに書き写しているとのことです。お貸ししたご本は必ず新しい表紙をつけて返して下さる彼女の心遣いに感銘を受けています。
私も残り少ない日々をこのように生きたいと願っています。

開祖さまのご法話　政治と宗教　～一票の行使～

宗教は、私たちが毎日生活しているこの社会をよくするためにあるものです。つまり世直しが目的です。それは、ただ祈るだけでは実現しません。祈りはもちろん大切ですが、「よい社会になりますように」と、ただ祈るだけで、現実の社会がすばらしい社会に変わるものではありません。社会を大きく動かすいちばんの力は政治です。ですから、なによりもまずよい政治が必要なのです。その政治は、どのような政治家を選んでまかせるかにかかっています。
そう考えてくると、選挙の大切さがよく分かってきます。私たち一人ひとりが責任を持って選挙権を行使することによって、国のために本当に役立つ人を国会に送り出すことができます。一票の行使によって国民の意思を国政に反映できる貴重な権利をむだにしてはならないのです。選挙のたびに、おもしろ半分で立候補する人がおり、また、おもしろ半分で投票する人がいますが、政治を甘く見すぎると、そのつけは自分に回ってきてしまいます。政治がだらしないと非難するよりも、そうした人物を選んだ自分たち自身を反省すべきなのです。

令和４年、私たちは「どこでも道場　祈り祈られ　笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。https://rkk-kyoto.jp/